

実践編

災害安全④

避難訓練計画と実践事例（中学校）

避難訓練の年間指導計画

1 年間を通して生徒に身に付けさせたい力

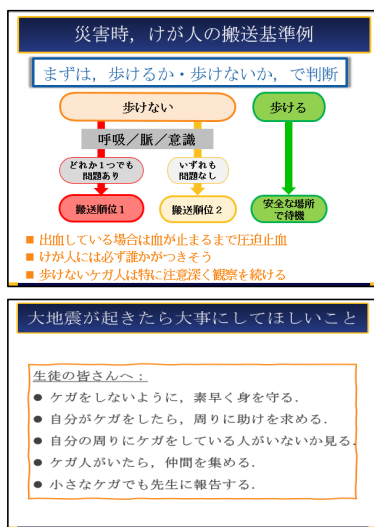
自らの命を自ら守る「自助」、周りの生徒を助ける「共助」について理解し、実践する力や態度を養う。

2 年間計画（年 11 回実施 抜粋）

月	想定	ねらい	避難訓練の内容	防災教材や教科等との関連
4	地震	地震発生時の避難方法について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 避難経路と点呼方法について知る。 トリアージの判断について知る。 地震発生時の避難の約束を知る。 【確認する内容】 <ul style="list-style-type: none"> 傷病者報告カード、校内破損チェックカード 中央階段前のフロアに各学年のブースを設置、AEDの位置、担架の位置、教室内の応急処置セット確認 	<ul style="list-style-type: none"> 避難経路図、教室掲示用トリアージ表、傷病者報告カード、破損チェックカードを実際に見ながらそれぞれの扱いについて確認する。
5	地震	地震等災害時の下校方法について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 地区班を確認し、集団下校の解散場所、リーダーを知る。 引き渡し訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き渡し訓練の意義や流れについて生徒だけでなく保護者にも事前に伝えて訓練を行う。 保護者を待っている生徒は学校でできることについて考える。
7	地震	避難訓練を通してトリアージの判断、正しい処置をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2年生と3年生の避難訓練を1年生が見学する。 2年生と3年生は傷病者報告カードをもとに報告することができたか、中央階段前のフロアに各学年のブースを設置できたか、担架を使用したかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は教室内と廊下に分かれ、教室内での対応の仕方、中央階段前のフロアにブースを設置することや担架の持ち運びについて確認をする。
9	地震	避難訓練を通してトリアージの判断、正しい処置をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で傷病者報告カードをもとに報告することができたか、中央階段前のフロアに各学年のブースを設置できたか、担架を使用したかを確認する。 災害本部を発災から15分後に設営する。 	<ul style="list-style-type: none"> けが人役を生徒が演じる。生徒の指名は事前に担任が行う。
10	地震	1年生が考える避難訓練等を通して、普段の訓練で行えない想定に対する対処方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 1年生が想定場所、けが、対象方法を考える。 1年生が考えた想定において2年生と3年生も対処方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の総合的な学習の時間を用いて想定やけが、対処方法を考える。 避難訓練当日は1年生が作成したプレゼンテーションのスライド、ワークシートを用いて考える。
2	地震	放課後や下校時における避難方法について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の部活動中や下校中に発災した時の避難方法について確認する。 下校中の生徒については学校に戻るか、家に帰るかの判断が自分のできるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動中に発災した時の対応を各部活動で事前に確認する。 家に帰るか、学校に戻るかの判断を事前に確認し、翌日、昨日の判断が正しかったかを確認する。

【参考】

（教室掲示用トリアージ表）



（傷病者報告カード）

けが人 報告カード		
記入者名	記入時刻	発生場所
		月 日 時 分
: 時点 赤 ― 黄 ― 緑 ― その他		
年組	氏名	症状（どこで/何が起きた）
対処（誰が/何をした）・症状の経過・伝達事項など		
記入者	時刻	メモ
本部 受理者 _____ 受理した時刻 _____		

生徒がけが人役を演じる避難訓練

中学校 全学年

1 ねらい

「自助」と、けが役の生徒に対して「共助」ができるかを確認する。

【想定】
授業時間内で発災。余震と合わせて各クラス2名の生徒がけがをした。

2 訓練の流れ

	活動	生徒の動き	◎支援・留意点 ■評価
事前指導	○けが人の対処方法、トリアージについて確認する。	○自助、共助として自分ができることを確認する。	◎各クラスに掲示しているトリアージ表や傷病者報告カードを実際に見せながら確認する。
避難訓練	○緊急地震速報が鳴る。 （約15秒間） ○鳴り終わったら、生徒1名がけが人の役をする。 ○けが人の状況を確認して、中央階段前のフロアに設置したブースに報告する。 ○発災から3分後に余震として再度、緊急地震速報を流す。（15秒） ○鳴り終わったら、別の生徒1名がけが人の役をする。 ○けが人の状況を確認してブースに報告する。 ○発災から15分後に本部を職員室に設営する。各学年は報告を行う。	○速やかに1次避難をする。 ○周りの生徒は、けが人の対応と授業担当者の教員に報告をする。 ○周りの生徒は、けが人の対応と授業担当者の教員に報告をする。	◎校内放送で一斉に流す。 ◎緊急地震速報等の音が苦手な生徒はあらかじめ別室に待機させる。 ◎けがの内容は全クラス共通で、「避難しようとした生徒が机に頭をぶつけた。生徒の意識はあり、一人で歩ける設定」で行う。 ◎教室外へ移動する生徒はヘルメットを着用させる。 ◎フロアに重傷者のけが人が1名発生する設定にする。 ◎担架を使用する場合は、ブースまでは生徒が運ぶ。
事後指導	○避難訓練の振り返りを行う。	○自助、共助ができたかを振り返る。	◎よかった声掛け、動きをクラスで振り返る。 ■自ら考えて行動することができているか。

